

東京都新宿区高田馬場4丁目1番9号
公益財団法人 国際文化カレッジ
理事長 品川 恵保

令和3年度事業報告

1 令和3年度事業報告

I 公1：通信教育およびこれに関連する芸術、緑、ビジネス等の継続的教育・育成事業

[1] 各事業（公1-1～公1-3）の連携

当年度は、公1の事業全体の連携を図るために、フォトマスター検定(公1-2)において、結果通知の際に写真関連の通信教育講座(公1-1)や総合写真展(公1-3)の周知を行い、知識の習得の機会や、作品発表の機会を与えるなどにより、各事業(公1-1～公1-3)の連携、連動を図った。

[2] 公1-1：通信教育

定款第4条(事業)第1項第(1)号「自動車技術、園芸・植物、美術・芸術、職業指導など各種通信教育」、および同第(2)号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する研究」に基づき、事業運営を行った。通信教育講座の普及活動における当年度の受講生(入学者)総数は、645人であった。

通信教育講座について

1. 入学者、退学者および修了者の総数

文部科学省認定講座群においては、当年度の入学者数は215人であった。また、同退学者および修了者数等は下表の通りであった。

課程名	年度当初 受講者数	年度間の異動			年度末 受講者数
		入学者数	中退者数	修了者数	
(合計)	109	215	87	130	107
家庭園芸講座	25	37	21	18	23
自動車講座	13	64	18	46	13
総合盆栽講座	0	0	0	0	0
造園講座	0	0	0	0	0
オートバイ講座	2	0	0	2	0
ハイキングとカメラ技法講座	0	0	0	0	0
庭木と果樹の手入れ講座	7	4	0	5	6
庭の工作物手作り講座	0	0	0	0	0
写真作品創作塾	30	25	13	13	29
植物医講座	20	48	15	32	21
庭師入門講座	6	17	9	7	7
美術品鑑賞鑑定入門	6	20	11	7	8

文部科学省認定講座に準じて運営するビジネス関連を中心とする講座群は、当年度の入学者数は430人であった。また、同退学者および修了者数等は下表の通りであった。

課程名	年度当初 受講者数	年度間の異動			年度末 受講者数
		入学者数	中退者数	修了者数	
(合計)	322	430	227	218	307
レタリング講座	60	101	92	10	59
A. 実践ボールペン字	19	18	9	10	18
C. トラブル対応力でチャンスに変える	9	19	7	13	8
D. コーチングで人を動かす	25	56	10	47	24
E. 説得力・交渉力を行使する	2	25	12	14	1
F. コミュニケーションで自信と信頼を得る	23	52	22	31	22
G. アサーション表現力で魅了する	30	12	2	11	29
I. 問題解決能力で現状を打破する	10	4	3	2	9
J. リーダーシップを発揮する	10	34	16	19	9
K. 論理的思考で実現させる	9	15	7	9	8
L. 発想力・創造力でビジョンを練り上げる	20	6	7	0	19
M. プレゼンテーションで成功する	10	7	5	3	9
N. 心理学でビジネスの成果を生む	30	25	10	16	29
O. 図解思考がクリアにする	20	14	10	5	19
P. 情報を成果に育てる	0	3	2	1	0
Q. 思わず誰かに話したくなるビジネス雑学	0	3	1	2	0
R. 眠っている9割を刺激する脳の活性化法	39	17	3	15	38
S. 誰でもできる時間の超活用法	0	1	1	0	0
T. 誰もが納得、数字の力	1	3	2	1	1
U. 実効性のあるキャリアデザイン	2	2	1	1	2
V. 新・人間関係のビタミン	0	0	0	0	0
W. 強いビジネス組織をつくる	1	2	2	0	1
X. コンサル型ビジネスの達人になる	0	2	1	1	0
Y. ビジネスで恥をかかない国語学	2	9	2	7	2

2. 普及活動について

園芸、植物関連講座では、肥料・農薬・種苗メーカーを始めとする園芸・農業関連会社やホームセンターなどの職域における受講需要につき、今後もこの分野への普及活動の可能性を追求して行くものとする。自動車講座や家庭園芸講座では、矯正施設における社会復帰等に向けた教育を目的としての採用が、当年度も継続して行われた。これにより、当年度も該当者の社会復帰等に向けた教育支援に資することができた。写真作品創作塾については、受験者が安定的に推移しているフォトマスター検定事業(公1-2)と連携して、受験者の学習に資する講座としての普及活動も行った。文部科学省認定講座に準じて運営するビジネス関連を中心とする講座群においては、これらを採用する企業や地方公共団体などが着実に増加してきた環境を受けて、受講生数も比較的安定していたが、航空産業の大口契約の減少など、コロナ禍における影響も発生している。そのような中ではあるが、文部科学省認定講座群と合わせて幅広い領域における生涯学習、社会教育を推進することができた。次年度はウェブ広告を本格的に展開することで、広く当財団の提供する社会通信教育などを周知すべく努力し、さらなる普及活動を行っていく。なお、総合盆栽講座、造園講座、ハイキングとカメラ技法講座の計3講座は廃講を検討したが、新型コロナウイルスの影響が想定よりも長引きそうな状況であり、財務状況の悪化も顕著であるなか、募集の停止期間を延長しつつ、新しい手段での営業の試みやデジタル空間における新たな技術の発展により、当該講座が再び営業活動を再開できる社会的状況になる可能性を鑑み、一旦判断を留保した。

3. 学習指導

学習指導における学習指導者(専門家)および教務責任者は下表の通りに組織して、各講座とも充実した添削指導を行い、学習途上における質問(質疑応答)に対しては詳細・的確・迅速に対応して受講生の学習意欲の向上を図った。

[文部科学省認定講座群の学習指導者および教務責任者]

講座名	学習指導者	教務責任者
家庭園芸講座	計3名 山形大学農学部卒：1名／ 日本大学生物資源科学部卒・ 2級造園施工管理技士：1名／ 東京農業大学農学部卒：1名	事務局職員 1名
自動車講座	計3名 元読売江東理工専門学校講師：1名／ 読売自動車大学校専任教員：1名／ 中央大学理工学部卒：1名	事務局職員 1名
総合盆栽講座	計2名 山形大学農学部卒：1名／ ㈱花門フラワーゲート技術者・ 2級造園施工管理技士：1名	事務局職員 1名
造園講座	計2名 ㈱花門フラワーゲート技術者・ 2級造園施工管理技士：1名／ 東京農業大学農学部卒：1名	事務局職員 1名
オートバイ講座	計3名 読売自動車大学校専任教員：1名／ 三井住友海上火災保険㈱アジャスター・ 元読売江東理工専門学校講師：1名／ バイクジャーナリスト：1名	事務局職員 1名
ハイキングとカメラ 技法講座	計3名 写真家：1名／ 元国立科学博物館付属自然教育園研究官：1名／ 国立科学博物館付属自然教育園研究官：1名	事務局職員 1名
庭木と果樹の手入れ 講座	計3名 2級造園施工管理技士：1名／ 山形大学農学部卒：1名／ 東京農業大学農学部卒：1名	事務局職員 1名
庭の工作物手作り 講座	計2名 2級造園施工管理技士：1名／ 東京農業大学農学部卒：1名	事務局職員 1名
植物医講座	計3名 東京農業大学農学部卒：2名／ 千葉大学環境健康フィールド 科学センター・農学博士：1名	事務局職員 1名
写真作品創作塾	計3名 写真家：3名	事務局職員 1名
庭師入門講座	計3名 1級造園施工管理技士：1名／ 日本大学生物資源科学部卒・ 2級造園施工管理技士：1名／ 東京農業大学農学部卒：1名	事務局職員 1名
美術品鑑賞・鑑定 入門講座	計4名 武蔵野美術大学卒：1名／ 美術評論・鑑定家：1名／ 絵画保存修復工房代表：1名／ 陶磁資料館館長補佐：1名	事務局職員 1名

文部科学省認定講座群の学習指導者および教務責任者の変更について

造園講座、庭木と果樹の手入れ講座、庭の工作物手作り講座の各学習指導者1名減。

[文部科学省認定講座に準じて運営する講座群の学習指導者および教務責任者]

講座名	学習指導者	教務責任者
レタリング講座	計2名 レタリング技能検定試験委員:2名	事務局職員 1名
実践ボールペン字講座	計2名 大東文化大学日本文学科卒・硬筆・毛筆書家: 1名/法政大学文学部書道科履修・硬筆・毛 筆書家:1名	事務局職員 1名
トラブル対応力でチャンスに変える/ コーチングで人を動かす/説得力・交渉 力を行使する/コミュニケーションで 自信と信頼を得る/アサーション表現 力で魅了する/問題解決能力で表現を 打破する/リーダーシップを発揮する /論理的思考で実現させる/発想力・創 造力でビジョンを練り上げる/プレゼ ンテーションで成功する/心理学でビ ジネスの成果を生む/図解思考がクリ アにする/情報を成果に育てる/思わ ず誰かに話したくなるビジネス雑学/ 眠っている9割を刺激する脳の活性化法 /誰でもできる時間の超活用法/誰も が納得、数字の力/実効性のあるキャリ アデザイン/新・人間関係のビタミン/ 強いビジネス組織をつくる/コンサル 型ビジネスの達人になる/ビジネスで 恥をかかない国語学	計2名 慶應義塾大学商学部卒・編集 企画制作事務所エムスリー代 表:1名/慶應義塾大学文学 部社会学科卒・エム・エフ・ ジー(株)顧問:1名	事務局職員 2名

添削指導の実施延べ回数は全講座の合計で2,202件、質疑応答は全講座の合計
で158件であった(細目は下表)。なお、企業・団体における受講に対しては、
人事部などの統括部署宛に、受講生全員の学習進度や成績などを細かく報告す
るサービスも例年同様に実施した。

[文部科学省認定講座群の添削指導状況]

課程名	実施延回数	一人平均 回数	受けた者の 実人数
(合計)	1,664	6.8	244
家庭園芸講座	290	6.3	46
自動車講座	836	12.1	69
総合盆栽講座	0	0.0	0
造園講座	0	0.0	0
オートバイ講座	1	1.0	1
ハイキングとカメラ技法講座	0	0.0	0
庭木と果樹の手入れ講座	37	3.4	11
庭の工作物手作り講座	0	0.0	0
写真作品創作塾	177	6.6	27
植物医講座	220	4.4	50
庭師入門講座	48	2.4	20
美術品鑑賞鑑定入門	55	2.8	20

[文部科学省認定講座に準じて運営する講座群の添削指導状況]

課程名	実施延回数	一人平均回数	受けた者の実人数
(合計)	538	1.6	333
レタリング講座	90	1.7	53
A.実践ボールペン字	27	2.3	12
C.トラブル対応力でチャンスに変える	33	1.4	24
D.コーチングで人を動かす	106	1.6	66
E.説得力・交渉力を行使する	34	1.3	26
F.コミュニケーションで自信と信頼を得る	63	1.6	39
G.アサーション表現力で魅了する	20	1.5	13
I.問題解決能力で現状を打破する	4	1.3	3
J.リーダーシップを発揮する	43	1.7	25
K.論理的思考で実現させる	17	1.3	13
L.発想力・創造力でビジョンを練り上げる	2	2.0	1
M.プレゼンテーションで成功する	8	1.3	6
N.心理学でビジネスの成果を生む	23	1.4	16
O.図解思考がクリアにする	7	1.4	5
P.情報を成果に育てる	4	2.0	2
Q.思わず誰かに話したくなるビジネス雑学	4	2.0	2
R.眠っている9割を刺激する脳の活性化法	36	2.1	17
S.誰でもできる時間の超活用法	1	1.0	1
T.誰もが納得、数字の力	2	1.0	2
U.実効性のあるキャリアデザイン	2	2.0	1
V.新・人間関係のビタミン	0	0.0	0
W.強いビジネス組織をつくる	0	0.0	0
X.コンサル型ビジネスの達人になる	3	1.5	2
Y.ビジネスで恥をかかない国語学	9	2.3	4

[文部科学省認定講座群の質疑応答状況]

課程名	実施延回数	一人平均回数	受けた者の実人数
(合計)	129	2.0	64
家庭園芸講座	7	1.8	4
自動車講座	81	2.4	34
総合盆栽講座	0	0.0	0
造園講座	0	0.0	0
オートバイ講座	8	1.0	8
ハイキングとカメラ技法講座	0	0.0	0
庭木と果樹の手入れ講座	7	1.8	4
庭の工作物手作り講座	0	0.0	0
写真作品創作塾	3	1.5	2
植物医講座	15	1.9	8
庭師入門講座	2	2.0	1
美術品鑑賞鑑定入門	6	2.0	3

[文部科学省認定講座に準じて運営する講座群の質疑応答状況]

課程名	実施延回数	一人平均回数	受けた者の実人数
(合計)	29	1.0	29
レタリング講座	15	1.0	15
A. 実践ボールペン字	2	1.0	2
C. トラブル対応力でチャンスに変える	0	0.0	0
D. コーチングで人を動かす	1	1.0	1
E. 説得力・交渉力を行使する	0	0.0	0
F. コミュニケーションで自信と信頼を得る	2	1.0	2
G. アサーション表現力で魅了する	0	0.0	0
I. 問題解決能力で現状を打破する	0	0.0	0
J. リーダーシップを発揮する	2	1.0	2
K. 論理的思考で実現させる	0	0.0	0
L. 発想力・創造力でビジョンを練り上げる	0	0.0	0
M. プレゼンテーションで成功する	0	0.0	0
N. 心理学でビジネスの成果を生む	2	1.0	2
O. 図解思考がクリアにする	0	0.0	0
P. 情報を成果に育てる	0	0.0	0
Q. 思わず誰かに話したくなるビジネス雑学	0	0.0	0
R. 眠っている9割を刺激する脳の活性化法	2	1.0	2
S. 誰でもできる時間の超活用法	0	0.0	0
T. 誰もが納得、数字の力	0	0.0	0
U. 実効性のあるキャリアデザイン	0	0.0	0
V. 新・人間関係のビタミン	0	0.0	0
W. 強いビジネス組織をつくる	0	0.0	0
X. コンサル型ビジネスの達人になる	0	0.0	0
Y. ビジネスで恥をかかない国語学	3	1.0	3

[4]公 1-2：通信教育に関連する知識・技能の検定

定款第4条(事業)第1項第(4)号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する知識・技能の検定」に基づき、当法人の写真関係の通信教育講座に関連する、第19回フォトマスター/写真とカメラの実用知識検定(略称：フォトマスター検定)を、文部科学省後援により以下の通り実施した。

(イ) 試験実施日

令和3年 11月21日・日曜日(通常日程試験)
及び11月22日・月曜日(特別日程試験)
及び11月23日・火曜日(特別日程試験)

(ロ) 試験会場

新型コロナウイルス感染症の蔓延を鑑み、本年度は試験会場を18都道府県(19箇所)に絞り実施した。尚、次年度は新型コロナウイルス感染症の社会情勢を考慮しつつ、全国開催に向けて調整することとする。

令和3年度の開催都道府県は下記の通り。

北海道/宮城県/福島県/栃木県/埼玉県/千葉県/東京都/神奈川県/長野県/
静岡県/愛知県/滋賀県/京都府/大阪府/兵庫県/奈良県/広島県/福岡県
以上18都道府県(東京都のみ2会場設置)

(ハ) 受験者数、合格者数等

写真・カメラに関わる実用知識、技能を客観的に評価認定する検定事業として、当年度は下表の通り、3級～1級の応募者数は2,642人、受験者数は2,305人、合格者数は1,335人の結果であった。なお、受験料は、前年度同様に自主会場(準会場)を設置しての団体受験の場合は10%を、一般会場で受験する団体受験の場合は5%を割引いて実施した。また、不特定多数が集う本会場については、感染対策グッズを準備するなど感染症対策を実施した。

受験級	区 分	応募者数	受験者数	合格者数
3 級	個人受験・一般会場	327	279	256
	団体・一般会場受験	31	30	21
	団体・自主会場受験	298	273	180
2 級	個人受験・一般会場	533	459	374
	団体・一般会場受験	35	30	19
	団体・自主会場受験	321	302	159
準1級	個人受験・一般会場	372	302	150
	団体・一般会場受験	21	19	2
	団体・自主会場受験	116	105	19
1 級	個人受験・一般会場	425	361	128
	団体・一般会場受験	16	13	5
	団体・自主会場受験	147	132	22
小 計		2,642	2,305	1,335
EX認定コース	(1ジャンル認定)	12	12	8
	(総合認定)	6	6	5
	(追加総合認定)	0	0	0
小 計		18	18	13
合 計		2,660	2,323	1,348

(ニ) 普及活動

各階級の受験者のプロフィールを下表の通りに設定し、一般写真愛好者から写真・カメラ関連業界の従事者に至るまでに機能する検定として、当法人の写真関連通信教育講座の受講生・修了生をはじめ、当法人が開催する総合写真展の出品者・観覧者や全国の写真愛好者、写真・カメラ関連業界など不特定多数の者を対象としてインターネット広告をはじめ、関連施設への受験案

内書の配布やDM、関係社等への団体受験の広報活動により受験者を募る普及活動を行った。

階級	一般グループ	業界関連グループ
1級	写真専攻大学生 優秀レベル	メーカー 営業責任者
	写真専門学校生 優秀レベル	販売店 販売責任者
	メーカー等のスクール指導者	プロラボ/総合ラボ 責任者
		写真館 撮影担当
		アシスタントカメラマン
準1級	写真専攻大学生 並レベル	メーカー 営業担当
	写真専門学校生 並レベル	販売店 販売担当
	高校写真部顧問	プロラボ/総合ラボ 従事者
	写真愛好家 歴10年以上	技術・営業担当者
	地域のサークルリーダー	
2級	中学校写真顧問	メーカー 事務従事者
	高校写真部員	ミニラボ オペレーター
	写真愛好家 歴5～10年	写真館 窓口担当
	メーカー等のスクールメンバー	一般紙誌編集者
	地域のサークルメンバー	各種企業広報担当者
	カメラ機械愛好家	デザイナーアシスタント
	カメラ雑誌愛読者	フリー記者・ライター
		マスコミ・ジャーナリスト志望者
3級	中学写真部員	DPE 窓口担当者
	趣味愛好家 歴5年未満	(取次店含む)
	撮影機会の多い一般者	

(ホ) 検定委員等

試験問題の作成、合否判定等に関わる当年度の検定委員は、下表の通りの写真家および写真・カメラ関連メーカー技術者により構成し、資機材の汎用的技術・機能はもとよりメーカー毎の独自の技術や機能等も試験問題に正確に反映させた。また、試験問題について、(一社)日本写真学会の学識経験者による監修も経て、より有意なものとすることに努めた。

	氏名等
プロ写真家・ 評論家関係	徳光ゆかり/テラウチマサト/市川泰憲/ 板見浩史/赤松秀夫/枝常伊佐央/大久保晴功
写真・カメラ メーカー技術者 関係	キヤノンマーケティングジャパン(株) : 1名/ 株タムロン : 1名/株シグマ : 1名/ 株ケンコー・トキナー : 1名/ 株ニコンイメージングジャパン : 1名/ パナソニック(株) : 1名/富士フイルムイメージングシス テムズ(株) : 1名/リコーイメージング(株) : 1名/ 株市川ソフトラボラトリー : 1名

(ヘ) 成績優秀者の顕彰

検定試験の結果が優秀と認められた団体受験または個人受験については、別に定める選考基準に基づき、以下の通り表彰した。

	団体受験に対して	個人受験に対して
文部科学大臣賞	1団体	4名(各級1名)
当法人による表彰	最優秀団体賞 1団体 優秀団体賞 4団体 人材育成貢献賞 1団体	最優秀個人賞 6名 優秀個人賞 44名 (各級合計)

[5] 公1-3：写真・水墨画・絵画等の展覧会

定款第4条(事業)第1項第(5)号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する展覧会や展示館の運営」に基づき、当法人の通信教育受講生の継続学習の促進や広く一般の美術、芸術文化の普及、振興に寄与する目的で、以下の通りに展覧会を開催した。

(イ) 総合写真展

1. 展示点数等

当年度・第25回展では、審査により入選以上に該当した1,404点の作品を展覧会会場(下記4.)に展示して公開した。

出品部門		展示作品数
半切サイズ	フィルム写真部門	50
	デジタル写真部門	847
全紙サイズ	フィルム写真部門	28
	デジタル写真部門	479
合 計		1,404

2. 公募活動

前年度同様、当法人の写真関連の通信教育講座を中心とする受講生・修了生に対して、写真作品を発表または無料観覧できる機会を提供して継続的学習に資し、同時に当法人が実施するフォトマスター検定の受験者、あるいは当法人が運営する展示館施設の観覧者・利用者を含む不特定多数の者に門戸を開く公募展として、インターネット広告、案内DM、カメラ関係販売店店頭でのリーフレット配布等の広報活動により作品を募集した。なお、出品希望者に対しては全員に、出品に関わる事項を詳述した当年度の出品要項(出品票付)を事前に送付した。

3. 審査、審査員等

審査員は、実績のある写真家を中心とする以下の専門家で構成し、応募作品の審査方法、審査基準、授賞等については、「写真・水墨画・絵画等の展覧会管理運営規則」に基づいて運営した。なお、最終審査はその厳正を図るために、出品作品を希望規定サイズ(半切または全紙サイズ)にプリント(紙焼き)した作品により行った。

氏 名	経 歴
川合 麻紀	プロ写真家
徳光 ゆかり	プロ写真家
テラウチマサト	プロ写真家
板見 浩史	写真評論家
丸林 正則	プロ写真家

4. 会期、会場、参観者数等

令和3年12月4日から12月10日の会期で、東京都美術館・2階第3~4展示室・1階第4展示室(東京都台東区上野公園8-36)を会場に、写真文化の普及、振興のために入場料を無料として開催した。なお、各作品には、出品者氏名・作品名・授賞名を付して展示・公表し、開催期間中の参観者は4,126人であった。開催に際しては、東京都や東京都美術館のガイドライン等にして飛沫防止や密対策等を行った。

5. 表彰式

表彰式は、令和3年12月4日に予定していたが、新型コロナウイルス感染症の社会情勢により、上位賞受賞の25名のみ招待制で授与式を行った。参加者以外の出品者への授賞賞状については、作品と同送にて出品者に届けた。

6. 審査結果の公表

審査結果は、入選以上の全展示作品について、氏名・賞名等を記載した「出品目録」を作成して展覧会場で観覧者等に無料配布して公表し、また上位作品については作品写真・氏名・賞名をホームページや全国版写真専門誌に掲載して公表した。

(ロ) 日美展「水墨画部門」

1. 展示点数等

令和2年は新型コロナウイルスにおける蔓延状況および緊急事態宣言の発出状況などを踏まえ事業を中止した。そのため、回次は繰り延べとし、令和3年開催において、第4回として開催した。第4回展では、審査により入選以上に該当した521点の作品を展覧会会場(下記4.)に展示して公開した。

出品の部		展示作品数
作家の部	F30号/F20号/F15号	102
一般の部	F30号/F20号/F15号/F10号 /F8号/F6号/半切1/2	322
臨画の部	F10号/F8号/F6号/半切1/2	69
俳画の部	F8号/F6号/色紙	18
無鑑査出品	F50号/F30号/F20号	10
合 計		521

2. 公募活動

当法人の美術関連の通信教育講座を中心とする受講生・修了生に対して、墨を主体にして描く水墨画作品(類似の俳画作品を含む)を発表または無料観覧できる機会を提供して継続的学習に資し、同時に不特定多数の者にも門戸を開く公募展として、インターネット広告、案内DMなどにより作品を募集した。なお、出品希望者に対しては全員に、出品に関わる事項を詳述した当年度の出品要項(出品票付)を事前に提示した。

3. 審査、審査員等

当年度の審査員および本展実行委員は以下の水墨画家等専門家で構成し、応募作品の審査、審査基準、授賞等については、「写真・水墨画・絵画等の展覧会管理運営規則」に基づいて運営した。

※当年度は下記20名の委嘱審査員のうち、大竹 卓/久山 一枝/沈 和年/根岸 嘉一郎/藤崎 千雲/松井 陽水/王俊 宇瀨の7名の専門家が当番審査員として審査に当たった。

五十嵐 玉俊(水墨画家)/伊藤 昌(水墨画家)/大竹 卓(水墨画家)/岡原 大華(水墨画家)/川端 豊次(水墨画家)/久山 一枝(水墨画家)/小林 東雲(水墨画家)/酒井 祐二(水墨画家)/篠原 貴之(水墨画家)/沈 和年(水墨画家)/新恵 美佐子(水墨画家)/千野 曜生(水墨画家)/千葉 玄象(水墨画家)/根岸 嘉一郎(水墨画家)/濱中 応彦(水墨画家)/藤崎 千雲(水墨画家)/松井 陽水(水墨画家)/丸山 東子(水墨画家)/村山 華凰(水墨画家)/王俊 宇瀨(水墨画家)

※審査員による審査結果の最終承認等を行う当年度の「実行委員」は以下により組織した。

河野 元昭(静嘉堂文庫美術館館長)/島尾 新(学習院大学教授)/町田 泰宣(公益社団法人日本南画院会長)/品川 恵保(当法人理事長)

4. 会期、会場、参観者数等

令和3年8月5日から8月14日の会期で、国立新美術館(東京都港区六本木7-22-2)を会場に、美術・芸術文化の普及、振興のために入場料を無料として開催した。なお、各作品には、出品者氏名・作品名・授賞名を付して展示、公表し、開催期間中の参観者は1,751名であった。開催に際しては、東京都や国立新美術館のガイドライン等に即して飛沫防止や密対策等を行った。

5. 表彰式

新型コロナウイルスの社会情勢により、国立新美術館講堂において人数を絞った招待制にて開催を計画したが、6月下旬からのコロナ第5波の状況を鑑み表彰式自体を中止とした。授賞賞状については、作品と同送にて出品者に届けた。

6. 審査結果の公表および作品集

審査結果は、入選以上の全展示作品について、氏名・賞名等を記載した「出品目録」を作成して展覧会場で観覧者等に無料配布して公表し、また、入選以上の全作品を掲載した作品集も制作して公表・販売し、当年度は285部を発行した。

(ハ) 日美展「絵画部門」

1. 展示点数等

令和2年は新型コロナウイルス感染症における蔓延状況および緊急事態宣言の発出状況などを踏まえ事業を中止した。そのため、回次は繰り延べとし、令和3年開催において、第4回として開催した。当年度・第4回展では、審査により入選以上に該当した1,167点の作品を展覧会会場(下記4.)に展示して公開した。

出品の部		展示作品数
油絵の部	F30号/F20号/F15号/F10号/F8号/F6号/F4号	387
水彩画の部	F30号/F20号/F15号/F10号/F8号/F6号/F4号	384
パステル画の部	F30号/F20号/F15号/F10号/F8号/F6号/F4号	41
色鉛筆画の部	F30号/F20号/F15号/F10号/F8号/F6号/F4号	161
デッサンの部	F30号/F20号/F15号/F10号/F8号/F6号/F4号	40
日本画の部	F30号/F20号/F15号/F10号/F8号/F6号/F4号	53
ちぎり絵の部	F10号/F8号/大色紙	33
絵手紙の部	ハガキ形式/巻き手紙形式	68
合計		1,167

2. 公募活動

当法人の美術関連の通信教育講座を中心とする受講生・修了生に対して、油絵・水彩画・パステル画・色鉛筆画・デッサン・日本画・ちぎり絵・絵手紙の各ジャンルの絵画作品を発表または無料観覧できる機会を提供して継続的学習に資し、同時に当法人が運営する展示館施設(軽井沢千住博美術館、および軽井沢ギャラリー館)の観覧者を含む不特定多数の者にも門戸を開く公募展として、インターネット広告、案内DMなどにより作品を募集した。なお、出品希望者に対しては全員に、出品に関わる事項を詳述した当年度の出品要項(出品票付)を事前に送付した。

3. 審査、審査員等

当年度の審査員および本展大賞選考委員は以下の画家等専門家で構成し、応募作品の審査、審査基準、授賞等については、「写真・水墨画・絵画等の展覧会管理運営規則」に基づいて運営した。

※「審査員」は以下の通り、部門別に当該分野の専門画家を置き、各部別の審査に当たった。	
油絵の部	板倉 暁(画家)／遊馬 賢一(画家)
水彩画の部	西丸 式人(画家)／岸本 庄八郎(画家)
パステル画の部	大枝 隆司郎(画家)
色鉛筆画の部	大枝 隆司郎(画家)／林 佳名(画家)
デッサンの部	村松 昌三(画家)
日本画の部	山本 真也(画家)／井坂 洋一(画家)
ちぎり絵の部	早川 美子(ちぎり絵作家)／玉井 祐子(ちぎり絵作家)
絵手紙の部	花城 祐子(絵手紙作家)
※上記の審査員による各部別の審査結果に基づいて、部を横断しての上位優秀作品に授与する賞(全体賞)を選定、決定する当年度の「大賞選考委員」は、以下により組織した。	
川口 紀美雄(画家)／千足 伸行(成城大学教授、画家)／中野 淳(武蔵野美術大学名誉教授、画家)／永井 龍之介(美術鑑定士他)／品川 恵保(当法人理事長)	

4. 会期、会場、参観者数等

令和3年8月5日から8月14日の会期で、国立新美術館(東京都港区六本木7-22-2)を会場に、美術・芸術文化の普及、振興のために入場料を無料として開催した。なお、各作品には、出品者氏名・作品名・授賞名を付して展示、公表し、開催期間中の参観者は2,577名であった。開催に際しては、東京都や国立新美術館のガイドライン等に即して飛沫防止や密対策等を行った。

5. 表彰式

新型コロナウイルス感染症の社会情勢により、国立新美術館講堂において人数を絞った招待制にて開催を計画したが、6月下旬からのコロナ第5波の状況を鑑み表彰式自体を中止とした。授賞賞状については、作品と同送にて出品者に届けた。

6. 審査結果の公表および作品集

審査結果は、入選以上の全展示作品について、氏名・賞名等を記載した「出品目録」を作成して展覧会場で観覧者等に無料配布して公表し、また、入選以上の全作品を掲載した作品集も制作して公表、販売し、当年度は538部を発行した。

[6] 公 1-4 : 芸術・自然科学に関する展示館施設

定款第 4 条(事業)第 1 項第 (5) 号「第 1 号に掲げる通信教育の分野に関する展覧会や展示館の運営」に基づき以下の通りに事業を運営した。

(イ) 軽井沢千住博美術館

1. 展示作品等

一般の観覧者のもとより、当法人の美術・芸術関連の通信教育講座を中心とする受講生・修了生の継続的学習に資し、あるいは当法人が開催する展覧会の出品者、観覧者を含む不特定多数の者に対する美術・芸術の涵養にも資するべく、現代日本を代表する日本画家千住博の世界観・宇宙観を表現した。なお、当年は開館 10 周年となるため、「軽井沢千住博美術館開館 10 周年の軌跡展」と題し、新作「冬の一隅」の本邦初公開作品を含めた、大作 47 点を展示した。

2. 開館日数、入館者数、障害者の入館料免除対応等

当年度は、令和 3 年 4 月 1 日から令和 4 年 3 月 31 日(令和 3 年 12 月 26 日から令和 4 年 3 月 1 日の期間は冬期休館)の期間で、開館日数は 272 日、延べ入館者数は下表の通り 43,930 名であった。夏期に第 5 波が発生し、6-9 月の入館者数がコロナ前の 2019 年に比較して 33%の大幅減となり、令和 2 年に続いて入館者数が大幅に落ち込むと思われた。しかしながら、宣言解除後の 10 月以降は、昨年のような GoT0 などの政策が実施されなかったにもかかわらず、リベンジ旅行として近場の軽井沢が選ばれたと思われ、10-12 月は開館以来最大の 17,827 名と 2019 年比 70%増の入館となり、最終的には 38,000 人の年度入館予定数を大幅に上回る結果となった。ただし、入館予定数はコロナの影響を想定したものであり、コロナ前のレベルには、感染減による夏期の本格回復まで待たれることになろう。なお、入館料を全額免除としている障害者および中学生以下の当年度の入館者数は、障害者が 1,609 名、中学生以下が 1,471 名となり、また、12 月には小諸市精神障害者多機能通所施設「ワークポート野岸の丘」の無償入館受入れを行うなど、一定の社会貢献を果たすことができた。開館に際しては、WEB や敷地内各所でのマスク消毒等のお願いを実施し、職員は日々の検温、各種飛沫対策を実施した。また、手の触れる場所等は高頻度での消毒を実施し、感染防止策を実行した。

入館者区分		入館人数
有料入館者	一般・個人	40,850
入館料免除対象者	障害者	1,609
	中学生以下	1,471
合計		43,930

(ロ) 軽井沢ギャラリー館

当年度は、昨年度の 3 月 1 日から 4 月 12 日までを、公 1-3(ハ)事業との連携として、長野県軽井沢高等学校・長野県上田染谷丘高等学校美術部の合同展である「カメビ観光 2 展」、4 月 15 日から 5 月 10 日まで、前年の総合写真展の表彰式中止や参観の断念などに対応し、時期を改めて上位賞の作品を展示した「全国公募第 24 回総合写真展 軽井沢千住博美術館ギャラリー特別展」を開催、5 月 13 日から 5 月 31 日までを、クリエイター(障がい者)とアトリエリスタ(支援員)がそれぞれの役割を担い、描いた原画をデザインに応用する活動の軌跡を多角的に紹介する「RATTA RATTARR のしごと展」、6 月 3 日~7 月 4 日までを公 1-4(イ)、公 1-3(ハ)事業との連携として「千住博版画展」、7 月 7 日~7 月 27 日を公 1-3(ハ)事業との連携として「東山魁夷版画展 - 信州を愛した巨匠 -」、7 月 31 日から 8 月 15 日までを公 1-3(イ)事業との連携として「第 6 回『軽井沢追分写真遊会』写真展」、8 月 18 日から 9 月 20 日までを、公 1-3(ハ)事業との連携として「天紫生絵画展」、9 月 26 日から 11 月 15 日までを、公 1-4(イ)事業との連携として「軽井沢千住博美術館 開館 10 周年記念 ギャラリー展 THE PUBLIC ART」、11 月 18 日から 12 月 25 日まで

を公 1-3(ハ)事業との連携として「UWC ISAK JAPAN 作品展『The Fall - a Creative Response to the Environmental Crisis』」、本年3月2日から3月27日までを、公 1-3(ハ)事業との連携として、長野県軽井沢高等学校・長野県上田染谷丘高等学校美術部の合同展である「カメビ観光3展」を開催した。このように、当ギャラリー館では、多角的な展示を行なうことで、軽井沢千住博美術館の観覧と合わせて美術、芸術文化等の振興に広く寄与するべく事業を実施した。

開催期間	催し内容
令和3年3月1日～ 令和3年4月12日	カメビ観光2展
令和3年4月15日～ 令和3年5月10日	全国公募第24回総合写真展軽井沢千住博美術館ギャラリー特別展
令和3年5月13日～ 令和3年5月31日	RATTA RATTARR のしごと展
令和3年6月3日～ 令和3年7月4日	千住博版画展
令和3年7月7日～ 令和3年7月27日	東山魁夷版画展－信州を愛した巨匠－
令和3年7月31日～ 令和3年8月15日	第6回『軽井沢追分写遊会』写真展
令和3年8月18日～ 令和3年9月20日	天紫生絵画展
令和3年9月26日～ 令和3年11月15日	軽井沢千住博美術館 開館10周年記念 ギャラリー展 THE PUBLIC ART
令和3年11月18日～ 令和3年12月25日	UWC ISAK JAPAN 作品展 『The Fall - a Creative Response to the Environmental Crisis』
令和4年3月2日～ 令和4年3月27日	カメビ観光3展

(ハ) 軽井沢カラーリーフガーデン

1. カラーリーフガーデンの活用

Acer platanoides 'Crimson king' (ノルウェーカエデ 'クリムソン・キング' /カエデ科)や *Betula pendula* 'Golden Cloud' (ヨーロッパシラカバ 'ゴールドデン・クラウド' /カバノキ科)などの木本、*Lysimachia ciliata* 'Fire Cracker' (リシマキア・キリアタ 'ファイヤー・クラッカー' /サクラソウ科)や *Tradescantia × andersoniana* 'Sweet Kate' (トラデスカンティア・アンダーソニアナ 'スイート・ケイト' /ツユクサ科)などの草本等々、他の植物園等では見聞し難いカラーリーフプランツを約150種類以上、総数約6万株植栽している本ガーデンについては、植栽している主な種類の名前を科名・学名付で表記し、その写真も掲載した銘板を作成してガーデン内の主な繁茂地に設置し観覧者の啓発、教化に努めている。本年度は台風などでの大きな被害はなかったが、定期的なメンテナンスを実施し、散策路の安全保持と景観維持に努めた。

(ニ) 令和3年度の美術品購入について

美術品購入は、「美術品購入積立資金」計画に基づいて行われている。令和3年度は、総額・35,160,000円を積立資金より取崩し費消した。費用の明細は以下の通りである。

- ①Waterfall on Colors (2021年) 17,580,000円
- ②Waterfall on Platinum (2021年) 17,580,000円

II 収1：出版、物品販売、展覧会に関わる表装代行・親睦パーティー、貸室および業務受託の事業計画

[1]収1-1：出版

定款第4条(事業)第1項第(3)号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する各種出版物の刊行」に基づき、当法人が運営する通信教育講座の学習内容等に関連する以下の検定試験の受験対策用教本等を、受験希望者にカタログで案内するなどして販売した。当事業の計画では、フォトマスター検定関係：1,500冊、デジタル技術検定関係が1,100冊、レタリング技能検定関係で4,000冊であった。実販売数は、フォトマスター検定関係は、目標をわずかに超える1,555冊、デジタル技術検定関係は、計画より大幅に増加し1,335冊、レタリング技能検定関係は、目標の9割である3,816部となった。ラジオ・音響技能検定関係は休止により販売予測を計画せず販売実績もなかった。

関連する当法人の通信教育講座等	出版物の内容・種類と販売部数
文部科学省認定 「写真作品創作塾」 (公1-1) 文部科学省認定 「ハイキングとカメラ技法講座」 (公1-1) フォトマスター検定 (公1-2)	写真・カメラの全般的な知識、技法に関わるフォトマスター検定について、その過去問題の解答・解説を行う受験対策用教本。写真・カメラの全般的な基礎知識、基本技法について学ぶ教本 <出版物の種類> ①フォト検 過去問題の解答と解説1～7 / ②フォトマスター検定公式テキスト <販売部数> 当年度の販売部数は、合計：1,555部 ①フォト検 過去問題の解答と解説1～7：834部 フォトマスター検定公式テキスト：721部
文部科学省認定 「自動車講座」 (公1-1) 文部科学省認定 「オートバイ講座」 (公1-1) 文部科学省認定 「写真作品創作塾」 (公1-1) 文部科学省認定 「ハイキングとカメラ技法講座」 (公1-1) フォトマスター検定 (公1-2)	自動車・オートバイ、あるいはデジタルカメラのデジタルシステムや音響に関係する、デジタル技術検定、またはラジオ・音響技能検定の過去問題の解答・解説等の受験対策用教本。 <出版物の種類：デジタル技術検定関係> 4級試験問題集 / 3級試験問題集 / 2級制御部門試験問題集 / 2級情報部門試験問題集 <出版物の種類：ラジオ音響技能検定関係> 4級最新既出問題集 / 4級受験読本 / 3級最新既出問題集 / 3級受験読本 / 2級最新既出問題集 / 2級技術教本 <販売部数> 当年度の販売部数はデジタル技術検定関係で計1,335部、ラジオ音響技能検定関係で計0部、合計1,335部であった。
レタリング講座 (公1-1) レタリング技能検定 (収1-5)	レタリングに関する用語解説、常用漢字の文字見本帳の役割をはたすもの。下書きから墨入れまで手順を追って、レタリングの技法を詳細に解説したもの。検定試験の各級の範囲や選定基準が網羅されており、レタリング技能検定のすべてが分かる参考書。 <出版物の種類> 書体サンプル集 / 文字骨格練習帳 <販売部数> 書体サンプル集：3,357部。文字骨格練習帳：459部

[2]収1-2：物品販売

定款第4条(事業)第1項第(5)号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する展覧会や展示館の運営」に基づき、以下の通りに当法人主催の展覧会に関わる出品作品の制作等に必要な用具用材類販売、出品者自身の展示作品を印刷するなどした記念品類の販売、および展覧会会場に設置した売店での用具用材類の販売、ならびに当法人の展示館施設(ミュージアムショップ)における観覧者への関連商品等の販売を行った。なお、日美展に関わる出品希望者または出品者に対する関連商品の販売は、出品希望者に配布する出品資料へのカタログを同封するなどして購入者を募った。新型コロナウイルス蔓延状況により、特に高齢者の意欲低下が顕著であり、展覧会の通販事業は今後も業績の悪化が予想される。

	販売品目と販売点数等
日美展 「絵画部門」 関連商品類(公1-3)	<p><カタログでの販売品目> 油絵用筆類/油絵具類/キャンバス類/画用液/水彩用筆類/水彩絵具類/水彩用紙/色鉛筆/日本画用筆/麻紙ボード/パステル/パステル用フィキサチーフ/パステル用スケッチブック/汎用スケッチブック/ちぎり絵用和紙類/ちぎり絵用台紙/顔彩類/画用印/絵手紙用筆/絵手紙箋/自作を印刷したパネル/自作を印刷したハガキセット等、約95品目</p> <p><同販売点数等> 当年度は、購入者が578人、販売商品の延べ販売数が1,242点であった。</p>
日美展 「水墨画部門」 関連商品類(公1-3)	<p><カタログでの販売品目> 毛筆類/墨/墨液/顔彩/用紙類/印泥付雅印/印泥/印矩/下敷/紙断包丁/ドーサ塗り用刷毛/ドーサ液/わんぱう/膠液/自作を印刷したパネル/自作を印刷したハガキセット等、約155品目</p> <p><同販売点数等> 当年度は、購入者が366人、販売商品の延べ販売数が813点であった。</p>
展示館施設 関連商品類(公1-4)	<p><販売品目> ポストカード/レターセット/オリジナル名刺入れ/小型複製画/シンボルマークキーホルダー/美術館カタログ/美術館DVD/千住博の各種著作物/カラーリーフガイドブック/セレクト雑貨等、約550品目</p> <p><販売点数等> 当年度は、販売商品の延べ販売点数は37,536点であった。</p>

[3]収 1-3：展覧会に関する表装代行・親睦パーティー

定款第4条(事業)第1項第(5)号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する展覧会や展示館の運営」に基づいて開催した各展覧会に関わる展示作品(入選以上該当作品)の表装代行、および出品者が希望により参加する親睦パーティーの開催に関わる事業を計画したが、8月開催の日美展は東京オリンピックの影響により、ホテルの会場確保ができなかったため、親睦パーティーは計画しなかった。なお、展覧会における表装は、材質・形状・色柄等の違いなど本来の作品性とは異なる二次的要素によって作品の本質的な鑑賞が妨げられることを防ぐためにその規格と品質、仕様の統一を図る目的で、あるいは出品者が全国各地にわたり在住地域によっては適確な表装手配に困難を来す場合もあること、あるいは不良梱包などにより表装が発送途上で破損する危険を回避し、表装済作品の嚴重梱包・送付に要する出品者負担を軽減するなど、出品者の利便性確保の目的で、事前に表装代行に関わる料金等を出品要項に記載してこれを出品希望者全員に知らしめた上で当法人が信頼できる専門業者を選定して代行依頼した。また、出品者に対しては、展覧会終了後に、リースの場合は作品のみを、買取の場合は表装した状態のまままで返送した。

(イ) 総合写真展(公1-3)に関わる表装代行、親睦パーティー

表装区分		表装(規定サイズへの紙焼き除く) 代行した作品点数
半切	買取	554
	リース	343
全紙	買取	385
	リース	122
合計		1,404
親睦パーティーは中止した		

(ロ) 日美展「水墨画部門」(公1-3)に関わる表装代行、親睦パーティー

表装区分		表装代行した作品点数
F30号	買取	103
	リース	61
F20号	買取	80
	リース	46
F15号	買取	22
	リース	12
F10号	買取	55
	リース	16
F8号	買取	51
F6号	買取	18
半切1/2	買取	51
色紙	買取	6
合計		521
親睦パーティーは計画しなかった		

(ハ) 日美展「日美絵画展」(公 1-3) に関わる表装代行、親睦パーティー

表装区分		表装代行した作品点数
F30 号	買取	94
	リース	52
F20 号	買取	84
	リース	52
F15 号	買取	74
	リース	31
F10 号	買取	166
	リース	55
F8 号	買取	162
F6 号	買取	163
F4 号	買取	155
大色紙	買取	11
ハガキ形式	買取	46
巻き手紙	買取	22
合 計		1,167
親睦パーティーは計画しなかった		

[4]収 1-4: 貸室

定款第 4 条(事業)第 1 項第(5)号「第 1 号に掲げる通信教育の分野に関する展覧会や展示館の運営」および同第(6)号「その他この法人の目的達成に必要な事業」に基づき、貸室料を前払いで月額 200,000 円(税別)、水道光熱費を実費払いとして当法人の展示館施設(公 1-4)の建物の一部(床面積 162.13 m²)をカフェ用に貸室する事業を運営した。

[5]収 1-5: 業務受託等

定款第 4 条(事業)第 1 項第(2)号「第 1 号に掲げる通信教育の分野に関する研究」に基づき、関連通信教育講座の開発や学習指導等に寄与、反映させるべく、「デジタル技術検定」、「レタリング技能検定」の試験業務を主催事業として実施した。

(イ) デジタル技術検定

1. 試験実施日

令和 3 年 6 月 27 日・日曜日

令和 3 年 11 月 28 日・日曜日

2. 試験会場

各都道府県の本会場及び特設会場(準会場)において実施した。

6 月(本会場 10、準会場 34、計 44 会場)

11 月(本会場 11、準会場 40、計 51 会場)

3. 受験者数、合格者数等

本検定は、情報処理・制御に関する技術をデジタル技術という観点からまとめて評価するもので、当年度は下表の通りであった。受験料の割引については本会場実施団体および一般会場で受験する団体受験の場合は延べ 15 名以上受験で 10%を割引いて実施した。また、準会場については、新型コロナウイルス感染症対策として、団体には自校・自社会場(準会場)の設置を勧め、かつ促進の観点から、受験料の 10%割引きについては割引対象の規定を延べ 30 人から 15 人へ引き下げ、設置についても人数制限を撤廃し、最少人数でも本会場に赴くことなく実施できるよう配慮した。また、不特定多数が集う本会場については、感染対策グッズを準備するなど感染症対策を実施した。しかしながら、検

定の申込検討(案内送付)から開催までは3か月程度の期間があり、本年度も4～6月、8～9月の緊急事態宣言により、団体申込の減少が発生し、厳しい結果となった。

受験級	応募者数	受験者数	合格者数
1級情報	62	43	11
1級制御	72	58	20
2級情報	551	497	316
2級制御	565	509	304
3級	671	637	501
4級	157	139	108
合計	2,078	1,883	1,260

4. 普及活動

工業高校・高等専門学校などの関連する教育機関や企業に受験案内書を送付する他、ポスター掲示、インターネット広告等により、受験者を募集した。

5. 検定委員等

検定委員は下記学識経験者により構成し、委員会を開催して、試験問題の作成や合否判定等を行った。

日本大学名誉教授：1名／東京工業高等専門学校名誉教授：1名／
東京工科大学教授：1名／日本大学教授：1名

6. 成績優秀者の顕彰

検定試験の結果が優秀と認められた団体受験または個人受験については、別に定める選考基準に基づき、以下の通り表彰した。

	団体受験に対して	個人受験に対して
文部科学大臣賞	2団体	6名(2級以上各1名)
当法人による表彰	3団体	164名(各級合計)

(ロ) ラジオ・音響技能検定

本検定は受験者減少のため、平成28年度から休止している。

(ハ) レタリング技能検定

1. 試験実施日

A日程：令和3年6月6日(日) B日程：令和3年6月12日(土)

2. 試験会場

新型コロナウイルス感染症対策として、本会場は東京会場に一本化。他、特設会場(準会場)において実施した。

6月(本会場1、準会場125、計126会場)

3. 受検者数、合格者数等

本検定は、美しく表情豊かな文字をデザインする知識と技能を評価するもので、当年度の結果は下表の通りであった。新型コロナウイルス感染症対策として、団体には自校会場(準会場)の設置を促した。また、準会場の試験監督料の支払いについては、三密防止で教室を複数使用する団体には、1教室当りの受検者数に限らず必要人数分の試験監督料を支払うなど、受検団体のコロナ対策にも配慮した。なお、受検料は、自主会場の団体受験の場合は10%を、一般会場で受検する団体の場合は、5%を割り引いて実施した。

受 検 級	志願者数	受検者数	合格者数
1 級	22	21	5
2 級	421	411	205
3 級	3,353	3,258	2,155
4 級	891	872	677
合計	4,687	4,562	3,042

4. 普及活動

工業高校・専修学校・専門学校などの関連する教育機関や団体に受検案内書を送付する他、ポスター掲示、ウェブサイト、情報誌等への情報提供等により受検者を募った。

5. 検定委員等

検定委員は下記学識経験者により構成し、委員会を開催して、試験問題の作成や可否判定等を行った。

デザインオフィス主宰・グラフィックデザイナー：2名／
 デザインオフィス主宰・文字・書体デザイナー：2名／
 会社員・文字・書体デザイナー：1名／
 多摩美術大学造形表現学部デザイン学科講師・
 文字・書体デザイナー：1名／
 文筆業：1名

6. 成績優秀者の顕彰

検定試験の結果が優秀と認められた団体受検または個人受検については、別に定める選考基準に基づき、以下の通り表彰した。

	団体受検に対して	個人受検に対して
文部科学大臣賞	2 団体	2 名
外部団体の表彰		
当法人による表彰	26 団体	121 名(各級合計)

[6]収 1-6：イベント事業

定款第4条(事業)第1項第(2)号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する研究」(5)号「第1号に掲げる通信教育の分野に関する展覧会や展示館の運営」および(6)「その他この法人の目的達成に必要な事業」に基づきイベント事業を実施した。

(イ) 軽井沢千住博美術館 開館10周年記念コンサート「軌跡」

当法人の公1-1「美術品鑑賞・鑑定入門講座」、公1-4「芸術・自然科学に関する展示館施設」と連動し、『軽井沢千住博美術館開館10周年記念コンサート「軌跡」』を開催した。出演の千住真理子氏、千住明氏は音楽家、千住博は日本画家であり、美術と音楽の調和、美術家と音楽家の共通点など、歴史の中でともに宗教や国家とも深く関わりのある美術と音楽を10周年という機会をもって、3人の競演により広く発信することを目的とした。

1. 実施日

令和3年10月9日・土曜日

2. 会場

軽井沢大賀ホール（長野県北佐久郡軽井沢町軽井沢東28-4）

3. 入場者数

チケット区分	入場者数
SS 席	88
S 席	547
合計	635

長野県自体は緊急事態宣言対象外であり、ガイドライン上は人数制限の必要はなかったが、チケット販売期間が新型コロナウイルス第 5 波のさなかであり、また、実施日における状況を事前に予測することはできなかったため、社会的要請なども考慮し、密緩和として座席数を予定よりも減らす対応を行った。

4. 出演者

演者：千住博(日本画家)、千住明(作曲家)、千住真理子(ヴァイオリニスト)
司会：近藤サト ピアノ：山中敦史

5. 普及活動

チケット委託販売、ポスター掲示、インターネット広告等により、広く募集した。